

# 私学の魂

中村中学校・高等学校

## オランダの“共生社会”を目標に掲げ キャリア教育で自己理解と他者理解を深める 学び合う喜びに満ちた女子進学校。 中村中学校・高等学校の理想

東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄大江戸線「清澄白河駅」から徒歩1分。都営地下鉄新宿線「森下駅」からも徒歩約7分という、東京・千葉・埼玉・神奈川からも通学に便利な立地にある中村中学・高等学校。隣接する緑豊かな清澄庭園・公園の脇を学園キャンパスへと向かう通学路は「清澄庭園・中村学園通り」と名づけられています。

中村中高は、「学びあう喜びに満ちた学校」、「開かれた学校」を標榜し、小規模で家族的な女子校でありながら、一方では社会に向けてのオープンなスタンスで、生徒の学習活動やキャリア教育に教員・保護者・地域の住民をはじめ、学園と関わりのあるすべての人々を巻き込んでいる、東京の深川エリアの地域に根ざしつつ社会に発信する女子の完全中高一貫校です。

2009年に創立100周年を迎え、そうした特色をより鮮明に打ち出して、在校生やOGはもちろん、同校を知る受験生と保護者、近隣地域の人々、多くの塾関係者からも好感を得ている同校の教育について、今回は校長の梅沢辰也先生にお話を伺いました。



校長 梅沢辰也先生

### 中村中学校・高等学校

DATA  
1

沿革 1903年 創立者中村清蔵が「深川女子技芸学校」を設立。  
1909年 中村高等女学校設立。  
1947年 新学制に伴い、中村中学校・中村高等学校開設。  
1999年 創立90周年。地下1階地上7階の新校舎落成。  
2006年 完全中高一貫校宣言。  
2012年 新館LADY竣工。

校長 梅沢 辰也

所在地 東京都江東区清澄 2-3-15

TEL : 03 (3642) 8041

http://www.nakamura.ed.jp/

交通 東京メトロ半蔵門線・都営大江戸線「清澄白河」駅A3出口より徒歩1分

## 共生社会、市民教育、世界共通言語を柱に、 将来の夢と、違いを尊重する感性を育てる 「学びあう喜びに満ちた」学校

中村学園が中学校を再開したのが1991(平成3)年。2006年には「完全中高一貫校宣言」をして高校募集を停止。そして2009年には創立100周年を迎え、制服も刷新し、翌2010年には「中村第2世紀幕開け」を宣言して、次代の新たな女子教育の理想に向けて、その後も着々と改革を進めてきました。

その変化の節目に第10代校長に就任し、同校の改革をリードしてきた梅沢辰也先生はこう話します。

「子どもたちの幸福度が世界一位といわれるオランダの教育をひとつの理想と考えています。3学年同一クラスや一斉授業をしない形など、現在の日本の学校では実現が難しいこともあります。本校でもそういった理念に基づく異学年交流の実現は可能ですし、すでにノーチャイム制も導入しています。何より子どもたちが健やかに育っていくための“安心感”のある学校でありたいと考えています」

世界の国々と比較して、日本の中学生の自己肯定観は低いという調査結果があります。そうした現代だからこそ、中村中高では、生徒一人ひとりが、自分を「かけがいのない存在」であると感じ、安心して過ごせる環境であることを大切にしています。

そのうえで、「もちろん学力を伸ばす…、つまり進路の選択肢を広げるための学習指導は今後も手を抜くことはありません」と梅沢先生。

そうした中村中高がめざす教育は、「学びあう喜びに満ちた学校」です。学校は生徒同士が楽しく学びあい、気づきあう空間。しかしその過程では必ず、他者の違う意見や考え方も出会うことになるため、自分とは異なる意見も否定することなく、素直に耳を傾けることができるように力を尽くしているといいます。



「ポストナビ大人と出会うプロジェクト」 in 森下商店街での1コマ。地域とのつながりが親密なものも中村の魅力です。

「自分だけがよくなればよい」という競争社会の対極にある「共生(=共に生きる)社会」を、現在の中村では教育の柱のひとつに掲げています。その根本理念となるのは、お互いが、そして様々な人々が関わって良くなっていく社会の実現＝「違いを尊重し、利他的に生きること」です。

さらに、そうした空間の扉を閉め切るのではなく、保護者はもちろん、地域や社会に「開かれた学校」をめざす姿勢は、やはり教育の柱に掲げた「市民教育」＝「壁を取り払い、社会を構成する一市民としての自律」を目的としたものです。

そして、もう一つの教育の柱に「世界共通言語」＝「心を解く。それは芸術であり、スポーツであり、言葉である」を掲げています。そのために中村では、芸術では音楽を重視。全員がフルートを必修授業とし、スポーツではフライングディスク(フリスビー)を取り入れ、英語に力を入れています。



「世界とつながる共通言語」として採用されているフルートとフライングディスク。

## 2014 文部科学大臣表彰受賞 キャリアデザイン教育を展開し 自主自律型学習者を育てる

「共生社会」は、他者を尊重すると同時に、自分を大切にすることでもあります。中村中高の教育が重視しているキャリアデザイン・進路指導でも「自己理解と他者理解を深める」ところから、それぞれが夢の設計を始めます。

そうした日常で、同校の先生方は「おはよう」のあいさつに「あなたの存在そのものが私の幸せです」という思いを込めています。まず自分が両親や家族、友人や周囲の方々から愛されているということに自覚してほしいのです。自分自身を大切にできないと、他人を大切にすることもできないからです。

いま私立中高一貫校には、新たなコース制・クラス制を導入するケースも多くなっていますが、中村では、あえて(一時期は設けていた)特待クラスなどを発展的に解消し、現在はフラットなクラス編成にして、すべての生徒が学校生活の様々な場面で触れ合い、学び合える環境を大切にしています。





全国を30回以上制した伝統のバレー部やクラブ内の親密さが自慢のサッカー部。文武両道を目指し、日々の練習に励んでいます！

「それも共生社会、市民教育の一環だと考えています。自分だけが良ければいいのではなくチームとして伸びていくということです」と梅沢先生。

小規模な学校であることを活かし、生徒と生徒・教員・保護者・OG、さらには近隣の方々との距離が、とても近くなっています。

「保護者会や茶話会は頻繁にありますし、おやじの会は今年で結成15年目を迎えて、さらに活発になっています。また、近隣の方々が、生徒が良いことをすれば褒めてくれたり、逆に叱ってくれたりするのも、ありがたいことだと思っています」と言う梅沢先生の言葉には、この東京・深川エリアで唯一の私立女子校として親しまれてきた自負と、その環境のなかで、自律に向けて日々成長する生徒への期待と信頼が感じられます。

定期考査の3週間前からOGの大学生が、チューターとして在校生の学習サポートをしたり、自身の体験談をプレゼン形式で話してくれます。これは卒業生にとっても勉強になり、ここでも中村の「学び合い」が実現しています。大学受験を間近に控えた高校生に向けて「学校の勉強中心で大丈夫。予備校に通うだけで勉強していると思ったら大間違い」といった力強いアドバイスもしてくれます。

もっとも、中村が考える学びは、先生やチューターに面倒を見てもらうことではありません。むしろ「自主自律の精神」を学力伸長の一大要素とみなして重要視しています。「学力＝知識力＋表現（知識運用）力＋努力の習慣」という図式で表せる学習スタイル、学習習慣を身につけるために、「100分学習」、「100



一年で最も盛りあがる一大イベント体育祭！女子校とあってあなごるなかれ！6年までが縦割りとなり、4色にわかれて競います。

冊ノート」、「100本表現」、「1000語引き」といった、「100＋1000プロジェクト」を、中1から6年間の学習課題に課しています。

「教師が生徒に「勉強しなさい」と言い過ぎるのはどうかと思います。むしろ生徒自身が「勉強したい」と思って“自ら学ぶ”学校にしたいと願っています。そのために教師全員が研究授業を教員間で公開しながら、互いの授業についての意見を交換し合い、生徒自身が「問いを立て」、さらには生徒と教員が双方向で「問い合える」ような授業の実現をめざしています。校長の私も、担当の体育で研究授業をするのですよ（笑）」と梅沢先生。ここでも教員同士の「学び合い」が実現しています。

さらに、中村中高が近年目覚ましい成果をあげ、文部科学大臣賞を受賞したキャリアデザイン授業では「皆が同じ物差しではかられる必要はない」という前提に立って、互いの意見や考えを交換し合い、自分と仲間の「いいとこ（長所）探し」をしながら、自分自身が「明るく輝いて活躍できる場所はどこ？」という“自分探し”を重ねていきます。大学進学がゴールではなく、就職がゴールでもなく、30歳の自分がどう生きていきたいかをつきつめていくのです。

こうして、生徒が自ら将来への目的意識を高め、日々の学習に能動的に取り組んでいけるよう、授業の手法や学習プログラムを進化させ、そのための教員間の研鑽も行われている中村中高の教育のめざす方向性と、そこで行われる対話型、双方向型の授業は、学校側が強調してはいませんが、まさにいま注目される「21世紀型教育」という見方もできるでしょう。

## 中村の生徒とOGが見せてくれた、多面的な“世界標準の”活躍！

そして中村中高には、新館LADYを「場」として、海外起業家セミナー・大使館員・海外大学・ヒマラヤ小学校支援・紅葉の会・落語の会・コンサート等々、多種多様な方々が集まってきます。2020年を見据え、今秋からは江東区の観光協会と協働で学校が観光コースにもなりました。

このような活動を空気のように呼吸している中村中高の生徒や卒業生が、今年も「世界標準の」活躍を見せてくれています。

一人は、「TOEFL iBT102点(PBT610点)を取得」した生徒。もう一人は、「ビーチバレージャパン女子ジュニア優秀有望選手に選考」された生徒。さらに「東京理科大学主催グローバルサイエンスキャンパスに選抜」された生徒もいます。そしてもう一人は、「2015ミス・インターナショナル日本代表選出大会ファイナリスト」に残った卒業生。

これらの生徒・OGの活躍は、2014年10月



この日は相撲部屋の朝稽古にお邪魔しました。これも地域に密着した中村ならではの光景です。

の「NAKAMURA News」に「世界標準の生徒たち」という題で紹介され、多くの生徒にとっても励みになっています（詳しくはこちら→ <http://www.syutoken-mosi.co.jp/station/navi/report/>）

また、卒業生のヨーコ・ゼッターランドさんが東京オリンピック・パラリンピックの組織委員会理事に選ばれたのも記憶に新しいところです。

いずれもまさに「グローバルな」活躍で、その分野が非常に多彩で多面的なことも、中村中高の魅力のひとつです。

### 女子の海外への雄飛を後押しする グローバルな進路選択が可能な 高校国際科の存在が再び注目

一方、中村では、いま高校の「国際科」が再び活気づいています。この国際科の生徒は全員が高1の1月から高2の12月までの1年間、英語圏の国（アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド）の私立高校に、原則1校1名で留学。TOEFL iBT80点を達成し、異文化を日常として「国際力」を身につけます。

グローバル教育が急務と叫ばれ、海外大学への進学



国際科では英語圏の私立高校に原則1校1名で留学。地球市民に求められる「国際力」を身につけます。

#### DATA 2 2014年大学合格状況・抜粋 卒業生86名 〔卒〕は既卒生の合格実績

海外大学		私立大学	
〔カナダ〕Simon Fraser University	1	東京理科大学	2 (卒1)
〔中国〕北京大学	1 (卒)	早稲田大学	2
国公立大学		青山学院大学	5
筑波大学	1	学習院大学	5 (卒1)
奈良県立大学	1	中央大学	1 (卒)
東京藝術大学	1 (卒)	法政大学	5
私立大学		明治大学	10 (卒3)
慶應義塾大学	1	立教大学	11 (卒2)
上智大学	1	他	

希望も増加している現在、中村の高校国際科の存在と、その充実した留学制度や学習プログラムが注目され、国際科への進学希望者が再び増加しています。

もともと英語教育には定評がある中村で、中学からの国際教育プログラムを経て、多くが英検2級、準2級以上の力をつける同校の生徒たち。そのうえさらに、海外留学の経験を経て将来のグローバルな活躍をめざすために、固い意思を持って進学を希望する国際科の生徒たちは、精神的な「強さ」を持ち、他の生徒にも良い影響を与える貴重な存在となっています。

そうした国際科のプログラムを経て、国内のグローバル大学に進学して入学式で総代挨拶をしたり、国内外の大学の中核となって活躍するケースも増えているといいます。

「頼もしいと同時に悩ましくもあるのは、国際科から海外留学した生徒が、そのまま帰国せず海外大学への進学を希望するというケースです。“世界標準の”活躍をめざす生徒の発想は我々の枠を飛び越すことがあります」と梅沢先生。

中村中高は、いまわが国の教育の課題とされる“グローバル化”を早くから視野に入れ、世界レベルで実践してきた女子校であるという点に、あらためて注目したいところです。



地域社会に向けて大きく開放された空間を作りたいと願って設計された「新館LADY」。オープンテラスの「足浴」は生徒たちにも大人気です♪